

北海道から 秋田県へ

氏名 木村 亮 仁

北海道鶴川高等学校 → 秋田県立本荘高等学校

(期間：平成26年4月1日 ～ 平成28年3月31日)

1. 派遣先の学力向上等の取組

○朝学習

・本県では家庭学習の取組を重視している。授業の内容を定着させると共に派遣先の高校においては全校生徒が、始業時間前に自主的に登校し、朝学習を行っていた。課題に取り組み、主体的に学習を行う基盤を作り、部活動などで学習時間が不足する生徒に対しても、効率的に復習する時間を確保している。



○ハイレベル講座

・本県の教育委員会が主催で、予備校の講師を招いて難関大を志望する県内の高校生に教科のポイントを指導している。高校1～2年生を対象として県内の進学校から希望者を募っている。学年毎の講座になっており、難関大進学を目指す県内の高校生が共に学ぶことでモチベーションを上げ、普段の授業と異なる問題に対するアプローチや解法のテクニックを習得している。

○団歌練習

・入学後、全校生徒で“校歌”“応援歌”“必勝歌”を全力で歌い、練習する。派遣先の高校においては上級生が下級生を指導し、全員が真剣に歌い上げるまで約1か月練習する。校内放送などにも歌が流れ、歌詞を体にしみこませ、いつでも歌える体制を作り上げている。高体連や、センター試験激励会など、要所に合わせて全校生徒がエールを送り合い、愛校心を思い起こし、奮起する力を生み出している。

○部活動各種目の支部大会、全県大会の実施

・北海道では、部活動において支部予選の勝ち上がりの結果、全道大会へ進出するが、本県においては支部大会と全県大会が近い時期に行われ、支部大会の結果によらず、全県大会にも出場できる。競技人口と大会の設定の仕方が異なることにより、進学校の最終学年は5～6月の大会で、インターハイを目指し引退をかけて最後の部活動に精を出す。文武両道に力を注ぎ、活躍の場をより多く持てる環境作りがなされている。

2. 北海道に戻って実践したいこと

○数学科の授業改善

・指導事項を明確にし、主体的に問題解決を行う姿勢と言語活動を通して自らの考えや見通しを表現できる授業づくりを目指す。

○組織的な進路指導の充実

・各担任や教科だけではなく、派遣先の高校で行っていた職員の総力（教科・学年・分掌の連携）を上げてチームで生徒の進路指導に取り組む。

（進学に対する面接、推薦入試指導、小論文指導、口頭試問、などの練習・指導）

・単年度で頑張るのではなく、複数学年のノウハウとその蓄積により、学校全体で学年の状況により内容、回数を決めるなど、組織的に取り組む体制の基盤を調整する。